



薫小だより

「気づき・考え・行動する 薫の子」



郡山市立薫小学校

学校便り No.24

令和6年 1月 9日

文責：校長 齋藤和彦

◆ 元旦から続く能登半島地震に被災された皆様（保護者の関係皆様）の一日も早い日常の生活への復興をお祈りいたします。

3学期 始業式のお話より①

寒い土の中でも、たくさんの命が春の準備

今日から3学期が始まりました。
寒い.さむい.と言うのも、そのはずです。
1月20日は「大寒」と呼ばれる日です。
(1年を24の季節に分ける..二十四節気の節。1年の中で最も寒さが厳しくなる頃の意味があります)
『冬』の語源は、ふえる・ふゆる・ふゆになったとも言われているのだそうです。
「何がふえるかって？さて何でしょう？」
土の中でも..木々の芽も..たくさんの命がふえている時なのです。

校庭や校舎周りの桜も、今は、春に美しい花を咲かせるために、寒い北風の中でも、たくさんの栄養を送って、つぼみを膨らませようとがんばっているのです。
チューリップの球根も冷たい土の中で、「芽を出してもいいよ」という=春の合図をじっと待っているのです。



さあ！みなさんも寒い日が続きますが、中学校進学・学年進級の春に、がんばりの花を咲かせられる力をしっかりと蓄えましょうね。

2024年(令和6年)の始まり

②「竜は人の心にいるのです..」



2024年(令和6年)始まりです。
干支は“辰”～空想上の竜にちなんでいます。(雲をかき分け雄雄しく大空へ駆け上がる神獣)

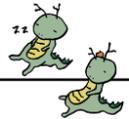
～話はちょっと飛びますが、世界一幸せな国と言われるブータンの国王と王妃が相馬市を訪れた時の話です。東日本大震災からわずか8ヶ月後の11月に相馬市の小学校を訪れてくださいました。国王は、人々に向けて、子ども達に向かって、次の話をされました。

『竜は一人一人の心にすみ、人格をつくると信じられています。皆の経験を糧に育ち、年を重ねるごとに強くなります。どうか自分の竜を大切に育ててほしい。』と。この辛苦をも乗り越えて、成長しますように..との、温かくも力強い国王の励ましは、今も被災地相馬の人々の心を支えていることを聞きました。(大震災から10余年の時を経ても、前を向いて頑張っている子ども達や地域の方々の姿には、逆にこちらが励まされます)
能登半島大地震を見舞うと同時に、あたりまえの平穏な日常にあらためて感謝します。

☆ 冬休み中に、大谷翔平選手からのプレゼントが届きました。
順番に各学級を巡らしますね。
～あきらめない“夢の実現”を～



◆◆ 校長室より ◆◆ 子どもが変わる！「ほめ言葉のタイミング」で..



「子どもは変わる」..「成長する」と言うときもある。大人も同様だが..子どもほどではない。友だちとの出会いで..授業で..学校行事でのチャレンジや活躍を機に..等々、きっかけは様々。先生の意図的なはたらきかけで変わることもあります。何が功を奏したか分からないうちに、「〇さん、このごろ変わりましたね。何だか、しっかりした受け答えができてますよ。」なんて、同僚から言われて、改めて気付くことがあります。こんなときは、私達もとてもうれしいものです。

そんな nice な情報は、すぐに担任に伝えたい。放課後の教室や廊下でも、情報伝達速度マックスにして！(よい情報に限る) = (※心配な情報は慎重に) ほめられた！心に届く一言！の「タイミング」も大切なポイントです。

子どもが「自分でがんばった！」(できた・やりとげた!)～このタイミングです。子どもも大人も『ほめられて育つタイプ』が圧倒的に多いことは確かなようです。

PS. 家庭で、“先生をほめる”と子どもが変わる..も本当です。(これは確かです。私もやった..) (家で先生の悪口ばかりだと..子どもも先生を蔑み..歪んだ見方で日々勉強することになってしまいます。)
☆ 子ども達の「変わったね」「成長したね」を見届ける日(修・卒業式)まで、あと50日です。